

大阪フロイデニュース

Freude

vol. 6 - 26 2015. 3. 18. wed

アレコレ

3/25(水)

ワオ大附中校

4/1(水)

4/8(水)

工部江アムテツバ

大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B
ホームページ <http://www.osakafreude.com>
メールアドレス info@osakafreude.com

「男声の助っ人」のこと、「2016年演奏会」のこと、で、ちょっとしゃべりたい。

3/14で「男声助っ人（由也先生推薦の音大学生、バス2名、テノール2名）」のこと発表しました。

今の団員人数で絶対的に無理ということではありません、現人数でも全員しっかり声を出せば大丈夫。ただ今回、男声は（特にテノール）2曲とも初めての人が多いためか、譜読みで音の把握に時間がかかったこと。それが尾を引いて、今時点でも音の自信の無いところなど不安いっぱいおそろおそろ状態！？でもみなさん先生に叱咤されると、バシッと声、出ますよね。いつもそうだといいいんだけどナカナカ、...。で、先生方が検討されたのは「どうすれば、もっとみんな実力をしっかり出せる状態になるか」でした。そこで「本番の」というより、練習のとき「あ、声出そう」というエネルギー投入の意味で、助っ人を、ということになった次第。その証拠に（？）たった2名ずつです。そのことでも「人数投入してうたってもらおう」という応援ではないことわかりますよね。

3/14に由也先生から説明があった通り「声は良く出る、若い」学生。練習には可能な範囲でできるだけ出てもらう予定。きっとその声が支えとなり、みんなも常に「しっかりした発声できちんとうたおう」というよい緊張感が生まれ、はずみがついて、あと2ヶ月ぐんぐん声が出るようになるし、よくわからない不安がなくなって「いい演奏会にするために」いろんなことに気を配る練習ができるはず。

3/25は参加初回。男声も女声も9月から6ヶ月練習してきたことを、まず4人に見せてあげよう！

■ 2016年演奏会を決めるまでのアレコレ

私が入団した1986年、いえ、創立時から、フロイデは「いい演奏会にしよう」が合言葉、一人一人気持ちの強弱はありましたが、でも全員がそれぞれに「頑張っ、できること全部やっ『いい演奏会』にしよう」って言ってました。では「いい演奏会」って何？ 新入団員の私は先輩団員に聞いたのです。「ねえSさん『いい演奏会』ってなんですか？」Sさんはこたえました。「お客さんがいっぱいの演奏会」「えっ？興業的成功？」意外な答えに問いなおすワタシ。「厳密には『結果としてお客さんがいっぱい』になる演奏会ってことかな。つまり合唱団員が『お客さんをいっぱい連れて来よう』って意欲に燃える状態にあること、練習の熱意も仕上がりも充実してること。練習で音楽全体の響きが自分でも聴こえるようになって、自分が気を付けるべきことをきちんと気を付けられる練習が積み重なって、これをぜひ聴いてほしいって心底思える状態ってこと。チケットが売れると責任感も実感として芽生えるし、そんな演奏会なら、本番でお客さんが喜んでくれる演奏ができるし、終演後の達成感充実感はずごい。また次もここで仲間と一緒にやりたい、友達も誘おうって思う。それが『お客さんがいっぱいの演奏会』言いかえると『自分のできることをやりきった演奏会、悔いの無い演奏会』かな。それが『いい演奏会』って思う。人によって「いい演奏会」のイメージは違っていいんだけどね

(→ううへん)

♪(モテから〜っま)

あれから約30年、ワタシはいつもそのときS先輩の言った「いい演奏会」をしたくて、ここで歌い続けているのです。(そう言ったS先輩は、とおの昔におうち&シゴトの事情で退団しちゃったけど)

2/18 ニュースで2016年演奏会について発表しましたが、正直けっこう悩んだのよ。今回いろんな事故で長年の仲間の久保田さんや岩井Bさんなど、リタイアを余儀なくされてしまったのもショックだったし、今の92人はすごい人数だけど、ちょっぴり、この音楽会のあとも続けてくれるかなあって不安になったり、運営委員会でも、いずちゃん、どうよ!?無理なんちゃうん?って話も出ました。

この間ずっと悩んでいたのは「合唱団を終わるときって、どういうときだろう」ってこと。財政破綻のとき?ホントにニッチもサッチもいなくなったら終了。でもそのとき「なんとしても続けたいから出す」なんて人が現れたら続けるし。つまり厳密にはお金の問題じゃないんよね。じゃあ何でしょか?

…ワタシが自分で思う「終わるとき」は、団員が「いい演奏会にしたい」って思わなくなったとき。そうなったら、たとえお金があってもダメなんだと思う。そんなツマラナイの、やめたほうがいい。

じゃあ現在の92人は?何がうれしくて来ているのか理由は92通り。だって「合唱団」に内臓されてる項目は多い。単に長年の習慣だったり人恋しいだけのヒトも居るし、先生の指導がクセになること、練習シンドイけど、できなかったことができるようになる、ファイトがわく、ウラカタ仕事もみんなに頼りにされてウレシイ、等々さまざま。まあ、そんなゆるやかな集まり。でも、共通点がある。それは「自分一人じゃ絶対できないことを成し遂げるためにここに来て」「いい演奏会にしたい」って思ってる。そして「いい演奏会」は誰かがやってくれるものでも、自然発生的にひとりでもできるものでもなくて、自分がやらないとダメってことを知ってる。そして、演奏会はウソつかない。5/29にいい演奏会ができれば、きっと続けたい誘いたい、と思う。

そうだ!92人みんな「いい演奏会にしたい」って思って頑張ってる!じゃあ、これは、なんとしても、続けなくちゃ!だからこそ一緒に相談した亀井先生由也先生も必死に次の曲目を悩んでくださいました。「何回も歌ってるけど人気があって奥の深い曲(モツレク)、と、歌ったことの無い初めての曲(ミサ kv.275)」ちなみに、「いずみホールでモーツァルト・レクイエム」は、実はすごいブランドの組合せ、例えば声楽を専門に勉強している人たちにとっては、なかなか立てないステージなんだよお(^_^)

「次」を決めるまでには、そんな経緯がありました。私自身、自分ひとりじゃ絶対できないことを、ここに居るみんなのおかげでやれていることが、本当に幸せだと思うねん。ありがとう、なんです。

ちなみに「先生の指導がクセになる」は私がここが好きなのイチバンの理由。オーケストラとの演奏会活動の合唱団で、演奏会の指揮者と一緒に練習できるのはすごいことって知ってた?たいていは日常練習と本番は別、しかも本番指揮者は練習には殆ど来ない上、日常指揮者との連絡もそれほど密ではない。(フロイデ時代は亀井先生が外山先生と本当に密に打合せをして練習して下さっていましたが)楽譜に描かれたことをオーケストラとどんなふうに料理しようかってことが、練習初期段階から示されるってすごいことなんよ。亀井先生由也先生の絶妙コンビは、その意味でも超貴重。亀井先生の「音楽全体」をにらんだ練習、その音楽実現の為の、由也先生の顔カラダ総動員の指導、そんなとこほかには無いよ!モチロン音程のずれを見逃さない真壁先生のするどい鍵盤アタックもクセになる! \(\textcircled{\circ}\textcircled{\circ})/\! \textcircled{u}

<p>オラシマモ のこし 詳しくはGMA344</p>	<p>予定</p>	<p>1/11~15 5/11~15 3/27(金)20:30 集 シゴト=ホ-ル</p>	<p>2/11~15 6/11~15 3/28(土)16:30 集 シゴト=ホ-ル</p>	<p>3・7・9/11~15 3/29(日)16:30 集 いずみホ-ル</p>	<p>4 8 0/11~15 3/31(火)20:30 集 いずみホ-ル</p>
-------------------------------------	-----------	---	---	--	--